

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 しおかぜ	代表者	理事長 三宅 富之	法人・ 事業所 の特徴	社会福祉法人しおかぜは、特養・ショートステイ・デイサービス・訪問介護・小規模多機能や認定こども園と子供から高齢者まで、幅広く生活を支援することができます。小規模多機能では、認知症高齢者の支援に力を入れており、軽度から重度の方まで様々な状態の方に利用して頂いています
事業所名	小規模多機能ホーム やすらぎの家児島駅前	管理者	草野 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	1人	2人	2人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・日々の業務のなかで意識できるように、毎月の全体会議の項目に加え、取り組みが確認できるようにしてみる	配布や掲示を行ったり、事業計画に取り入れた 毎月の取りくみの確認はできていなかった。	毎年事業所評価を行うのは、時間も労力もかかり、大変であるが職員の振り返りができる良い機会でもある	毎月の会議の項目にサービス評価全体の確認ができる項目を追加し、取り組みが確認できるようにしていく
B. 事業所のしつらえ・環境	・玄関を入りやすい雰囲気を作る（玄関に花を植えたり、ウェルカムボードを作成したりする）	玄関にプランターを設置し、球根を植えたり、施設裏手で朝顔を育てた。ウェルカムボードは作成の途中で、まだ完成していない	施設内の雰囲気は良いと思う。前回と玄関付近は大きく変わっておらず、まだ改善の余地があるとおもう	玄関付近の花壇に多年草等の花を植えてみる ウェルカムボードを完成する
C. 事業所と地域のかかわり	・地域への投げかけを行い、興味のある事や知りたいと思っている事を知る	地域の世代が若く、まだ必要と感じていない 公園清掃や祭りで、ある程度の交流はできている	認知症サポーター養成講座の実施など場所を使用できれば、中を知ってもらう機会になるのではないか？	月1回のゴミ拾いを実施 小地域ケア会議で情報発信ができるか、検討する
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・少しの散歩等も含めて、利用者様としっかり外に出る機会を作る	時候が良い時は、ドライブに出かけた 地域包括主催のミニ地域ケア会議に参加した	利用者様は様々な地域に住んでおり、各地域の行事に参加するのは難しい	時候の良い時は、施設周辺の散歩をしたり、外出の機会を多く持てる様に意識して支援する
E. 運営推進会議を活かした取り組み	・現在の状態を継続し、より積極的な意見交換を行っていく	以前に比べると、会議内での意見交換ができるようになった	資料も多くあり、事業所の様子はよく伝わっている	現状の形式を維持し、地域と一緒に取りくんでいけることはないか、検討していく
F. 事業所の防災・災害対策	・現実的な避難経路を検討 ・施設内の危険個所を探し、改善していく	指定された避難場所に行ってみた フロア内の家具の固定を実施	運営推進会議に合わせて、避難訓練を行っている所もある 避難マニュアルを掲示してはどうか？	現実的な避難訓練の検討と実施 緊急連絡網の確認と連絡の試験実施